

不安や怒りの感情は弱くなり、言動も落ち着いてきます。記憶障害が進み、運動能力やコミュニケーション力も著しく低下しますが、「快」「不快」の感覚は敏感です。周囲の環境や人とのかかわりによって、「快」の感情が働くと体調もよくなり、逆に「不快」の感情が働くと熱を出すなど、感情が体調に直接影響を及ぼしやすくなります。

日常生活行為全般に障害がでます。椅子に腰かけるなどの簡単な動作も、指示に従うことが困難になります。生活全般で、介護量が増えます。訪問診療、訪問看護、訪問介護をうまく利用しましょう。

#### 〈主な症状〉

- ①生活の基本動作が自分ではできない
- ②言葉でのコミュニケーションが難しくなる
- ③一日中ぼんやりしている



#### 〈ご本人はこんな気持ちになっています〉



#### 〈ご家族にできること〉

- ①あたたかなコミュニケーションを心がけましょう  
周囲の状況や関わり方が、本人の気持ちや体調を左右します。あたたかな心のつながりをもてるような接し方をしましょう。
- ②目を見てゆっくりと話しましょう  
心のつながりを受け止めてもらうには、接し方に工夫が必要です。目を合わせ、ゆっくり、やさしく話すなど、気持ちをわかりやすく伝えましょう。
- ③心地よさをたくさん感じてもらいましょう  
食べやすい食事にする、体を清潔に保つなど、身体的に気持ちよい状態を保ちます。手をにぎる、背中をさするなどのスキンシップも大切です。

参考文献：認知症の人と家族の会、認知症になった家族との暮らしかた、ナツメ社、2018、P50-52

山口晴保、紙とペンでできる認知症診療術、協同医書出版社、2016、P259-260

## ケアのコツ…伝わるのは話の内容より、話し手の感情



認知症の人は、理解力が低下してきてしまい、話の内容を理解することが難しくなります。話の中身より、話に込める感情に気を使うようにします。優しい、いとおしい、いたわりの感情は、笑顔、優しい眼差し、穏やかな口調などの形をとってコミュニケーションに付随して相手に伝わります。

参考文献：福島喜代子, 結城千晶, 事例で学ぶ認知症の人の家族支援, 中央法規, 2017, P57-61

とよさと病院 認知症疾患医療センター  
TEL 029-847-9581  
(月)~(水)・(金)・(土) 9:00~16:00

2022.6作成